幼兒教育

第十九卷第十一號
大正八年十一月五日發行

目次

フレーベルと現代思潮……小西重直
分團保育を試みつゝ……折井彌留枝
第二回全國幼稚園關係者大會の記……てい子
月夜の兎……土川五郎
大阪市立兒童相談所を訪ふ(一)……會員
雜報……
ヘッベル「わが幼時」(三)……艶子譯

日本幼稚園協會

會告

○會費御拂ひ込みの節は御名前は初め御入會の時の御名前と御同一になし下され度く、假令ば初め幼稚園名にて御入會、後、個人の御名前にて會費御拂込み等のことなき樣必ず願上候整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亘り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左樣御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

本誌定價

一冊　郵税共金拾六錢　六冊前金郵税共九拾錢
拾二冊同金壹圓八拾錢　郵券代用一割增

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。（振替口座東京一七二六六番）

大正八年十一月三日印刷納本
大正八年十一月五日發行

東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四
編輯兼發行者　倉橋惣三

東京市本所區番場町四番地
印刷者　守岡功

東京市本所區番場町四番地
印刷所　凸版印刷株式會社本所分工場

發行所　東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
日本幼稚園協會

幼兒教育　第十九卷第十一號　大正八年十一月五日發行

フレーベルと現代思潮

＝第二回全國幼稚園關係者大會に於ける講演の大要＝

京都帝國大學教授
文學博士　小西重直

○フレーベルの思想と現代の教育

今や世界の大戰以來、教育全般の社會にも改造の聲が喧しくなつた。この聲は幼稚園教育の上にも及んで種々の研究がなされる事になつた、而して此處に幼稚園と云へば必ずフレーベルが引會ひに出るしかもこれ迄はフレーベルを尊敬したが今や改造の聲が盛んになつてフレーベルがどうでもよい樣になる傾向がある。と云つて其の關係がはつきりと絶たれてもゐない、つまりフレーベル思想の處分がよく出來てゐない、これでは改造と云つても思ふ樣に出來るものでない。そこで私はフレーベルの思想と現代思潮と如何に關係するかを考へその結論としてフレーベルの思想のよい所は之を充分に現代思潮に鑑みて助長しその誤れる點を捨てる事に躊躇しない、つまり私は如何に處分するかと一言に云へば卽ちフレーベルの思想は其根本に於ては生かして行きたいと思ふ。其理由を以下順を追ふて述べて見やう。

○フレーベルの思想は萬有在神論

今、フレーベルの思想の根底をなせるもの、その背景となつてゐる時代及其思想について少しく考へてやう。見

紀元五世紀の初めにシメオン、スタイライテーツと云ふ人は丸柱の上にのつて修業したと云ふ基督教信者であつた。しかも其柱を人が見てはうるさいとて終りには高さを六十尺にして鎖でその上に體をしばりつけてその上に三十七年間坐した。又、一晩中手をのばして空を仰いでゐた。或はある人の數へた所によると頭を膝の所まで一千二百四十四回も下げたなどと云ふ事が傳へられてゐる、これは一例であるがつまり當時の基督教では難行苦行をすれば神の國に行けると云ふ信仰があつたので、其人生觀は身體及自然界物質界と精神とを別々に切りはなして考へ經驗界物質界には厭世的の態度を取つたのである。其後中世紀の終り頃には勿論宗教に根底はおいてゐたが身體の力もみとめる樣になり、殊にかの市民教育の起るに及んで經濟生活に重きを置くに到つた。かくて近世の初めに於ては謂ゆる人文主義、文藝復興の時代となり神本位の思想から人國本位に變つて來た之を教育上で云へばかの啓蒙時代には人間の理性の力をみとめるとともに物質界にも敬意を拂ふに到つた。この考へ方を系統的に發表したのが卽ちフレーベルである。

元來フレーベルの思想は人間のこの世界に於ける地位及活動の本質と云ふ事が根本であるがこれは文藝の方ではかのローマンチック時代哲學の方ではカント、フイヒテなどの理想主義に影響されてゐる。ことにもフレーベルが一番多く影響をうけたのは、シエーリング、及クラウゼの思想と思はれる。フイヒテは人間の自我以外に大我とも云ふべき大なる力の活動を認め、その本位とする所は我であるとする。シエーリングは自然及人間の精神の本體は同一で人間の精神は「自然」が發達して意識が出來此處に自我が出來る、卽ち同一なる根本から出て居るが故にこの世界には反體はなく根本に於ては調和的統一的のものである。と考へるのである。又クラウゼは其特色とする所は宗教論にある、しかも萬物の中に神ありとするので萬有在神論をとなへた。一體宗教上、神と世界との關係に就ての見方が、世界の外に神ありとする有神論と萬物の中に神が內在してゐる、萬物一つ一つが神であると云ふ汎神論とがあるがクラウゼの說は云はばこの二說の調和をはかつたので卽ち世界は神の中にある、しかし神は世界のみならず世界以上にも絕對にある、萬物に內在ししかも萬物

を超越すると見るので自然及人間の理性の根源は神から來る、この兩方を完全に統一して調和する所に人生の完成がある、現實の人間はこの調和が出來てゐないがしかもこの調和に向つて努力するのである人間には生れながらに理想がある、しかしその理想が全體的でなく且小なるが故に之を大になさんとして此處に活劇がおこるのである。とクラウゼは考へる。

扨、これをフレーベルの思想について考へて見やう。フ氏の考へでは神が世界を支配する根源であつて神は世界の中にある、しかも萬物はまた神の中にあり神は萬物を超越して支配する、自然にも精神にも神性がある、この神性が萬物の根源であつて、しかも人間は意識及自由獨立の精神力を持つてゐる。教育は人間の小理想、力の弱い神性を次第に自覺させて、之を自己の力で發展させて行くのにある。と考へこの神性あるがために生ずる力之をフレーベルは自己活動となづけたのである。そこでフ氏の云ふ自己活動はやはり神性そのものであつて、神が之を與へた、神は絶對であるが自己表現のためにやはり働くものであると考へる。且自己活動は自己一人を眼中におかず社會的の見地を有し他を斥けての自己發展ではなく、他人の力、權利、活動をみとめて自己が働く時に初めて本當の自己活動がある、之を其の發達の段階によつて見れば先づ人間は內面的のものを外面的に發展させる、(例へば遊戯の如き)次に、進んでは外面的のものを內面的にもつて來る、(知識)更に內外の兩方を統一的に見て自然と人間、神と我との調和統一をはかり自己の意識の上に之を統一する。この人間の有する神性を完全にする事が之卽ち教育であると考へる。しかもフ氏はまた宗教と勞働との關係を考へて、宗教なしの勞働は器械的に荷物を負ふ動物に過ぎぬ、又勞働なき宗教は空虛なものである、神は又自己實現のために勞働してゐるこの神性がまた人間につたはつて社會の實際生活にふれて來る。勞働と宗教と節制とあらば天國は實現される。謂ゆる勞働は實際社會に於て奴隷生活から開放されるものであるとする。こゝにフレーベルは內面生活上の宗教生活と外界の仕事とを統一して內面生活の獨立と實際生活の運命との統一を見出した。これらを合せ考へて見るとフ氏の人生觀は、各人神性を有し且その上に又神ありとするので卽ち萬

有在神論の大なる影響をうけて居ると云へると思ふ。

○現代思潮如何

以上大體フレーベルの思想を考へたがそれと現代思潮との關係を考へるには、先づ現代思潮そのものについて知らなければならぬ。之は實に多方面であつて一言に云ひつくす事は出來ないが私は之を大體に先づ次の樣に考へる。卽ち我々の活動する實生活の背景となつてゐるのは

(1)自由の獲得と云ふ事……であるこれは實に意識的にまた無意識的に我々にはたらくのであつて自由は人間本性の意志及其の統一性の根本は法則をつくるものである。すべて人類全體に價値あり且眞實なるものはこの自由が根本となつてゐる。勿論ごく發達しない幼時からこれがすぐに充分にあるとは云はれない。しかし先づ衝動から初まつて之は次第に發展するので之には大體四つの段階がある。第一階段は衝動、第二階段は選擇の自由(淺き反省、)第三階段は悟性的の自由(反省が深刻となるが部分的である)第四階段は理性的の自由(此處に於て本當の意志の自由が働く)、この第一段のものは例へば咽が渴くと云ふ樣に全く衝動であるがしかもその中に人間として其の生活構成のための目的あり理想もあるが、たゞそれが無意識であり自由が偶然的でありしたがつて狹いものである。それが次第に進步して第四階段に達すれば初めて完全なる自由になるのである。經濟的方面を考へて見ても衝動的による利益はごく低いものであり、工夫によるものの其結果は進んだものである。實際、衝動によりて偶然的になつた財產家は價値判斷の上から見て價値少なきものであるこれは一例にすぎぬが實際我々はあらゆる方面に於て自由の發展に進まんとし之の獲得のために意識的に無意識的に活動すると考へる事が出來る。

(2)同類の感情、異類感情……人生の歷史の上から考へて見て國家學者社會學者は今日種々の方面から人間を說明するが此處に私は、同類感情異類感情が人間生活の大切な部分をなして居ると思ふのである。この感情によつて一般に生物間に團體と云ふものが出來て來る。同じ器官を有するものは一つの刺激に對して相似たる感情をおこす。例へば馬は草に對して食慾をおこす、しかし人間は草に對して何と

も思はない。この意味で生活の習慣が出來、人間は人間同士集り動物は動物同士集まつて互に他から我が團體を保護しやうとする樣になる。更に人間同士でも人種による同類感情から他人種の排斥が起り、それのみならず進んでは血族的關係の同類意識がおこつて一方と結び他に反抗する樣になる。又文化的の同類相結んで異なる文化の働きを爭ふ事も起る。

昔からの歷史を考へて見ても又將來の事を想像して見てもこの種の爭ひの種々のあらはれを見る事が出來る思ふ。

(3)マルクスの唯物史觀……近來やかましく云はれてゐるマルクスの唯物史觀と云ふ見方がある。序に考へる事は一體マルクスとフレーベルとは緣故があるのでフ氏があの「人間の敎育」を書いた時には獨乙では革命が起り、フ氏自身も政府から革命者と思はれたのであるが、マルクスが社會主義の宣言書を書いたのはフ氏の死ぬ數年前の事であつて、この兩氏は同時代に居つた人である。

マルクスは謂ゆる人生を唯物的に見て、卽ち人間の生活を歷史的に事實的に見ると生產の問題に由つてきまるとしたのである。人間の歷史は生產の如何が根底で、これに由つて社會生活の理想もかはる、グリークの昔には奴隷のみが實際の働きをした、中世紀には親分、丁稚と云ふ樣な階級の生活があつた。近世はまた資本家と勞働者との階級になつた。マルクスは人類の歷史をたゞ唯物的にのみ見たのであるが又、多くの學者は之を批評して單に理想のない唯物史觀を不可として居るが私の考へる所でも實際マルクス自身が考へた階級の戰爭なども、先づ需要供給の考へを主として之から社會を改善する案をたてるべきで、勤勞そのもののみをきりはなしては考へられない。やはり其處に精神がなければならない。經濟そのものの中にも眞なるもの、善なるもの、美なるものがなければならないと思ふ。また同時に宗敎にしても經濟と密接の關係がなければならず物質界にもまた理想がなければならない。かくの如くマルクスの唯物主義は種々の點から批難をうける、しかし彼のとなへる階級平等の考へは現代及將來に大に事實の上にあらはれて來るかと思はれる、たしかに今後階級戰爭が盛に起る時期が來る。

○フレーベルの思想と現代

思潮との關係

私は以上大體現代思潮の大勢をごく大攫みに三つに考へたのであるが、私としては人間をマルクスの樣に見ずにやはり理想的に見たい。人間各々の有する個性、その自由を完成させたい。之を導きこの働きを意識的にする所に教育があると思ふ。

甲と乙とが兩方平等になつても單にそれだけでは兩方が自由になつたとは云はれない。眞の自由とは兩方の理想を實現せんとする生活が甲と乙とに共同の目的に向つて進むものでなければならぬ。この共同的の價値を見出して行く此處に平等の眞意がある階級戰爭と云つても一階級だけが他の階級と違つた目的で互に他を拒まんとする爭では價値はない、兩階級の眞の爭はそこに共同の理想、共同の目的をもつて、之に向つての互の爭でなければならない。この能度をフレーベルは神性と云つて居るがこの理想的自由を獲得せんとする過程が大切である。カントは他人の人格を認めよと云つたが、更に一歩を進めて、我々の行が他人の行と關係して世界的、一般的の價値を持つものとなり、此處に互に共通點を有して互の價値を保ち得てこそ初めて眞の自由が出來るのである。即ち部分的から一般的。統一的の人生の見方、フレーベルはこの全體的統一的の態度を神性とよび之の發展をつとめた所に氏の思想の眞價がある。

原始民族には生活難がなかつたのではないが、しかし生活が簡單であるのでその感が少かつた、しかるに文化の進むにつれて生活は複雜となり道德上の種々の事が加はるためにこの感は實に深刻になつて來た。したがつて之が救濟にも大なる力を用ひねばならない。それには即ち各自人間が互に價値あるものに向ひての努力をなし大きなものを攫むために力をつくし共通せる理想に進まねばならぬ。皆共同一致して力を大にせねばならぬ。既に孤立の時代は過ぎ去つた。この意味でフレーベルが謂ゆる神性なるものが人間にそなはり之を大きく育てゝ行かねばならぬと說く所に私は面白味があると思ふ、即ちこれが現代思潮に於てもフ氏の說の價値ある所である。しかし之を養ふその實際の方法に於てはフレーベルはあまりに其態度が平和過ぎたと思ふ。かの「人の敎育」をよんで見ても丁度春の天氣のよい時に花の咲

き鳥のうたふのを聞く樣な感じがする。私はかう思ふ。

（一）人間の自由意志と云ふものは謂ゆる神性など、云ふ內容となるべきものを最初からもつて居るのではない。その內容は經驗から來るのであつて、實際生活をして行く中に其の內容は或は神性とも或は動物性ともなり得る。この自由意志は然らば何から來るかと云ふ問題になるとそれは神からと云つてもまた無理に神と云はずとも大我と云ひ或は他の大なる力と云ふ、それは名前は何とも云ひ得やう兎に角我々は自由意志を貰つてゐる。が自由意志は何處までも形式であつて、內容までも我々は貰つてゐると云ふ事は出來ない、こゝに於てこそこの自由意志の發展、その內容の充實のためには初めからそんなに平和に出來る事ではない、戰はねばならぬ、努力せねばならぬ。フレーベルは內容迄も神性の中に含めてしまつたので、その考へ方があまりに平和すぎたと私は思ふ、

（二）次にフ氏はあまりに神性と云ふ事を强めて考へたがために教育はたゞ之を啓發するにあると云ふ主義であるがしかし私は教育は單にひそんで居るものを開くにとゞまらず生活を構成して行くと云ふ事でなければならないと思ふのである。

しかし他方に於て今日の思潮として自我が自己活動によつて眞の本質をみとむるに至ると云ふ點に於て其人生の見方が餘程フ氏の思潮に關係してゐる。フ氏の謂ゆる神性の實現は私の云ふ自由意志の發展と云ふ事である。

要するにフ氏は其名著「人間の教育」の中で萬有在神論を取り、萬物には神の性があつて、しかも神はまた其以上にあつて萬物を支配すると云ふ考へであるが、此れを宗教から離れて考へる事は出來る、卽ち我々は何か自分以上のもの、大我とも云ふものの中に自我が生きて居ると云ふ事が出來る。しかしその自我なるものの內容を制限すると云ふ事には私は贊成は出來ない。

フ氏の思想が部分的に事物を見ずに全體的統一的に見ると云ふこの態度は今日我々が卽ち部分的の議論をやめて、共同的生活の價値を養はん考へ方に一致するのである。

○幼稚園に對する希望

私は以上述べし如くにフレーベルの思想の取るべき部分を受け入れ、改むべき點又捨つべきものあらば之を處分するに躊躇せぬものであるが此處に全體的一般の統一を重く見ると云ふ立場から幼稚園に希望として三つの問題を掲げやう。

（一）人間生活に於ける內面生活の結合

これは卽ち言葉の問題であつて、フレーベルは宗教的立場から宗教、理科、言語の三つを修養上大切であるとし、卽ち宗教は希望を、理科は確實性を、而して言語は生活の內外統一の機關であると云つて居る幼稚園では成るべく小供が言語を事物に關係してあらはす樣にし、機會ある每に指導者は注意深く方言、發音などの矯正をする樣にしたい。此頃早教育の問題が盛であるが天才的の人は言語に早く熟達するとも云はれて居る。實際人間の精神生活の根底たる言語及其習熟については今後の研究問題として欲しい。

（二）幼稚園と小學校との關係に就て

この關係は何とかして解結をつけぬと幼稚園の發達上に困る事が多からうと思ふ。一體學校教育はその間に互に相關聯して共同的の動作がある譯で今日、我が國に於ける幼稚園と小學校との間には此處に一つの橋を架けて之を調和する必要があらうと思ふ。

一昨年紐育のバルマー氏は小學校と幼稚園との關係その調和點についての論を發表したがその大要は次の樣になる。先づ小學校側から幼稚園側に對する注文としては

(1)手工の時に一層獨立的の態度をして欲しい。
(2)幼稚園に於ける訓練的の方面として、靜かにすると云ふ事に注意を拂つて貰ひたい。
(3)年令の制限を廢して能力本位によつて組を分けるがよい。
(4)米國紐育では二年保育であるがそれを一年保育とした方が寧ろ型にはまらず、興味が起る事が多い。
(5)國語に注意してほしい。
(6)讀み方、書き方を入れてほしい。

幼稚園から小學校に對する注文としては

(1)手工の時間を增加して欲しい。
(2)訓練上に、小學校ではも少し自由を與へて欲しい
(3)机腰掛なども、動かし得るものとし、遊戲談話などは幼稚園に於ける如く圓(サアクル)をつくつてする樣にしたい。

(4)一組の定員を減じて一層個性に應じた指導を與へる樣にしたい。

(5)作業の時には一層創造的でありたい。

(6)小學校でする算術は、實際的のものは別として、數そのものの取扱ひをも少し減ずる樣にしたい。

以上の樣であるが私はこの兩者の關係を一層密接にしたいと思つてゐる。小學校の立場から見ても一年生は今少し幼稚園に近づけるがよろしい。今の一年生はあまりに家庭生活から離れ過ぎてゐる樣に思はれる。次に

(三)幼稚園と社會との關係について。

幼稚園がも少し社會的事業に關係する必要はあるまいか、ことに其地方地方の母の會に幼稚園が直接關係する事は誠に大切である。幼稚園に關する集會講演會には必ず母親も出席して實際幼稚園に從事する人々の如何に熱心であるかを知る丈でもよいと思ふ。又子守の問題についても幼稚園が手を出さなければならぬ。子守の教育問題は特に考慮して之を社會事業の一つとして實現する事は目下の急務である。

かくして我々はこの現代の思潮に棹さして之に逆はず又之に押し流されずよく其眞理のある所に着眼して行かねばならぬ。

（未校閲＝文責在筆記者）

○玉成保姆養成所生徒募集

本年第三回の卒業生を社會に送り出した玉成保姆養成所は既に明春の新學期入學者の願書を受付けて居ます。新學期は四月十日開始。授業は毎日午後二時より五時迄。尙同養成所の規則等詳細の事は同所々長たるソフアヤ・アラベラ・アルウキン孃（東京市麹町區上二番町三六）宛に照會なされたらよろしいと思ひます。

分團保育を試みつ

岡山市立幼稚園　折井彌留枝

私は昨年九月から分團保育といふ事を試みてゐますが、其成績は大に見る可きものが在るので、爰に本誌の餘白を借つて、其方法と意見とを發表して、大方の御批評を乞ふことにした。

先づ私は分團保育の試みを思ひ立つた動機からお話しやう。私の現在與つて居る幼稚園は、何れも百六十人以上二百人の幼兒を收容して居て、其を四人乃至五六人の保姆にて取扱ふといふ現狀で在つて、何れも一人の保姆の受持つ人數は四十人を下らないそこで、之れを保育するに、從來の如き一齊的保育の遣方では、唯々喧騷無秩序なる群集となり、從て保育の原則として最も貴重なる自發的生活などは得て望まれないのみならず、相互的保育も不可能である。且つ幼兒の個性調査に就ても、從來は一二人づゝに就き其個性を調べて居たが、周圍の事情の爲め、本眞劍に子供を釣り込む事も出來ず、又、其總ての調査が單に表面のみの調査となり、眞に其兒の個性を洞察することが出來ないで只徒に其日を過す場合が無いでも無い。其上、保姆と兒と眞率に遊ぶ事が出來ないから、止を得ず暗示的に抑へ付けなければならないやうになる、然るに之れを分團にすれば、自然保姆と幼兒との關係から云つても眞實味はれる又相互的生活をも味はれる、斯くてこそ始めて理想的の保育を觀ることが出來る、斯うして根本的に騷々しき群集の中から少しづゝでも救ひ出して遣りたいと云ふ、鐘念から思ひ立つたので。之れが此分團保育の產れた動機で在る。

次に來る問題は、其分團の方法は何うかといふ事で在るが、之れには子供が自發的に相互團になるのと、一は先生から干涉して分團を作るのと、此二樣の方法が在る、先づ自發的に相互團になる場合は、例へば、四十人の園兒の中、十人だけを小さなお室に入れ、しんみりとした保育をする、餘の三十人は他の組の遊仲間に預ける、それで其時の遊び材料、

其他の物は毎日〳〵在りたけの物を與へないで、毎日種々なる遊び材料を取替へて與へる、然うすると子供は意の向ふが儘に、或者は砂場、或者は積木、或者は粘土、又は庭園の草原にて虫追ひ、其他木蔭などにて自ら場處取事、飯事、お雛遊、繩飛び、お彈き、大工事、或は畑の茄子などを採り、象、馬、牛などを作り、木の枝にて足などを作りて、積木にて動物園を作り、又一方では、樹木に下がつて居る蓑蟲を採つて巣の中から蟲を出して觀察したり、又紙切れを細かく切つて蓑蟲の着物に與ふるなど、思ひ〳〵に相互團となつて、自發生活をして居るのである。之れ實に自發であつて、自然の分團ともいふべきである、互に十人宛の保育をする爲めに、他の組に預け合ひをした時、最も必要な事は、申す迄もなく保姆同志の意志が疏通して、互に他を助けて全體保育の效果を擧げることに留意しなくては、到底此目的を達することは不可能である。

次に先生から分團をするには何うするかといふに時には朝登園の際、各兒に自由に材料を撰擇させて分團を作つたことも在つたが、然し其各兒の欲求を誌して見た處、粘土を好む者は何時も粘土製作を希望し、積木の好きな者は何時も積木といふやうに、一方に偏して、何だか物足らない、充實せない心持がするので、一週間に二三回は必ず先生から適當に分團を作つて遣るやうにした、そして雨天續や、極寒の時には取分け此分團法を多く實行して居る。

此方法は最も設定保育で在つて、先づ四十人あれば之れを四組に分團して、園兒に相談して、其組々に適當の名を附ける、即ち旭組、月組、森組、瀧組などの如きである。それで例へば旭組に粘土、月組に畫き方、森組には剪紙、瀧組には糊紙、綿絲、鋏、豆、竹等を與へ、此四組に向つて、共通的の或一の目的を與へる、即ち先生から八百屋事をして遊びませうといふと、各組は其目的に向つて自發的に各工夫を始める、即ち粘土では梨や、ばなゝ、栗、茄子など、思ひ〳〵に果物を作る、又畫方では同樣に、其目的に向つて柿とか、梨とか、色々な物をかき現はす、すると剪紙の組では、他の組と同樣、種々な果物を作つて遊ぶ、瀧組でも同樣、赤き紙に綿を入れ、柿や林檎を作り、柿は糸で之れをつるし、又綿を丸めては卵を作り、或は紙で袋を貼るなど、各組とも頗る興味を以て、一心不亂に遊んで居る、先生

は其中の或組一を限つて、特に注意して個性を調べるといふやうにして居る、尙次の時には其各組の材料を交換して、同一目的の下に創作せしむる事もあり、或は新に共通的目的を指示することも在り、時には各組園兒の自發的に撰擇した目的を採用することも在る。

斯くして自發的に意義ある設定保育を施して居るのである、併し此方法も現に研究中で在つて、其成績は今爰に明確に發表する事は出來ないが、此分團的取扱に就いて、今日迄に著しく感じた事が在るから、其れを箇條的に申述べて、本稿を了へやうと思ふ。

一、園兒の皆が熱心になり、物に對して興味を持つ事。
二、精神が高潔快活に成り神經が靜平と成る。
三、自發性を養ひ、豐かなる生活が出來る。
四、幼兒相互に親密となる事。
五、相互生活に依つて同情心が厚くなる。
六、子供は子供らしい人格を作るやうになる。
七、意志の纏りがつく事。
八、注意力を養ふ事が出來る。
九、道具の引張り合ひの如き爭び事が少なくなる事。
一〇、用具等の不足を來たすことを免れる。

以上日頃の研究實驗して居る、我幼稚園の保育其儘を卒直に無秩序に申し上げた譯で、何うか充分御批正下さるならば望外の幸である。

第二回全國幼稚園關係者大會の記

てい子

既記の如く大會は左の日程を以て去る十月十七日より十九日迄三日間大阪市公會堂で開催された。

第一日　十月十七日（神嘗祭）　午前九時開會　午後五時閉會

一、一同着席
二、唱　歌　君か代
三、開會の辭　大阪市保育會長
四、祝　詞　文部大臣以下　數名
五、議長選擧
六、文部省諮問案討議

七、協議題　第一問第二問討議

正午休憩　午後一時開會

八、研究及意見發表（一人に付十五分以内）

九、講　演　フレーベルと現代思潮

京都帝國大學教授

文學博士　小西重直先生

第二日　十月十八日（土曜日）　午後正一時開會

一、協議題　第三問乃至第六問討議

二、研究及意見發表（一人に付十五分以内）

三、講　演　生活か教育か

東京女子高等師範學校教授　倉橋惣三先生

茶　話　會

餘　興　（舞樂其他）

第三日　十月十九日（日曜日）　午前九時開會　正午　閉會

一、協議題　第七問第八問討議

二、文部省　諮問案討議

三、研究及意見發表（一人に付十五分以内）

四、閉會の辭　大阪市保育會長

見　學（大阪朝日、毎日兩新聞社及築港其他）

（午後一時半指定の場所に集合のこと）

以　上

第一日

定刻には會場にあてられた公會堂には出席會員八百名それに傍聽者をも加へて九百に近き人が集まつた。場外では煙火が盛に打上げられた。會は豫定の如く進行し、先づ君ケ代の合唱をはつて大阪市保育會長なる池上大阪市長の開會の辭、文部大臣中橋德五郎氏及日本幼稚園協會々長湯原元一氏の長文の祝電の朗讀についで大阪府知事の祝詞（代讀）終つて小畑市視學より本大會開催につきて諸準備の經過報告並に大會開催中の諸設備について丁寧なる報告の後大村茂樹氏議長に擇ばれ此處に文部省諮問案討議に移る。「幼兒の各年齡に適切なる保育事項如何」と云ふ諮問案に對しては生憎文部省側よりの説明委員來阪せざるためにその委員着阪までこの討議を延期すると云ふ説と大會出席者中より之が調査委員をあげて之が答申に當るを適當とすとの二説に分れたが、結局委員をあげて調査する事となり委員選擧は議長に一任し、選ばれた委員十五名は此日の午後から直ちに調査に係り愼重に審議をかさね同夜深更に至る迄この調査會は協議をつゞけたのであつた。一方日程は協議題討議に移つた。

第一問　第一回全國幼稚園關係者大會に於て其筋に建議したる公立幼稚園の園長保姆の資格及待遇につき其實施を促すことを再び建議すること

（參　照）

1. 幼稚園保姆の資格を正准二種とし正保姆は小學校の本科正教員准保姆は尋常小學校准教員と同等以上となすこと

但勤續十箇年以上にして成績優良なる准保姆に對しては無試驗檢定により正保姆たるの資格を與ふること

2. 前項の資格ある公立幼稚園の園長保姆には市町村立小學校教員と同一の待遇を與ふること

但從來の保姆にして勤續十五箇年以上に亘り成績優良なるものには特別待遇法を設くること

（內容說明）

市町村立小學校教員の受くる年功加俸、疾病療治料、免許狀共通の特典を幼稚園長保姆にも與へらるゝ樣規則の改正を希望するにあり

大阪市保育會提出

第二問　公立幼稚園長及保姆に對する待遇を改正せられたき件

但小學校教員免許狀を有せざる園長保姆に對する場合

1. 公立幼稚園保姆にして五ヶ年以上奉職し成績佳良なるものには年功加俸を附せられたきこと

2. 同前十五ヶ年以上奉職し退職の場合には退隱料を又十五ヶ年に達せずして退職のものに對しては退職給與金を支給せられたきこと

靜岡縣保育會

（說　明）

右は大阪市保育會提出

參照　2に於ける趣旨と本會提出協議題は同趣旨のものにて小學校教員免許狀を有せる園長保姆に於ては明治三十三年法律九十號を以て提出題2の特奠に預り居るも其他のものにありては何等の議なく候に付右提出題を提出致したるものにて之れを要するに大阪市保育會御提出參照1.2,及內容說明に於ける協議と全然同趣旨のものと存ぜられ候に付同時に附議せられたきものに候

第一問、第二問何れも二三の質問が提出者と會員との間に交換されて後に滿場一致其筋に再建議をすると云ふ事に議決し協議題第三「幼兒に文字を教ふる

の可否」（京阪神聯合保育會提出）に移る。說明あり質問あり、二三討議に入つたが第四問なる「幼兒の文字慾に對する取扱法如何」（廣島縣三原女子師範附屬幼稚園提出）及第五問「幼稚園時代に於て文字並に數の初步觀念を與ふる可否、若し可なりとせば之が方法と程度如何」（富山縣女子師範附屬幼稚園提出）は何れも關係ある所から以上三問を合せて協議しては如何と云ふ發議あり滿場一致之に贊成し各問の說明質問について討議に移つた。議論百出の有樣であつたが時は遠慮なく經過するので結局委員附託となり撰擧を議長に一任し此處に選ばれた九名の委員は直ちに別室に於て調査に移る事となつた。

午後の研究題發表は順を追ふて進行した。

及川平治氏（明石女子師範附屬主事）は「保育科目に就て」と云ふ表題のもとに大要左の如き意見の發表があつた。

今日幼稚園事業に從事するものの考へなければならぬ重大な事の一つは保育事項の本質如何と云ふ事である。私は兒童にとつては生活と學習とは同じものであると考へる。例へば子供が蜻蛉をとらうと思つて追ひかける、手に捉む、逃げる、今度考へて帽子でとる、などと取れた、此時子供は要求に滿足を得たので卽ちこれは生活であり又其滿足を得るために捉へ方を學習した事になる、幼稚園に於ける保育は卽ち學習である。が、私の此處に云ふ學習は書物をよむ事ではない、或る事に對する要求のために生ずる其行動の系統的に組織せられる事を云ふのである。換言すれば保育とは幼兒の生活を導く事卽ち實際手を動かし足を運んで、以て其の行動系統を組織するに他ならぬのである。實に自ら目的を有し自ら實行し、活動すると云ふ事が卽ち眞の意味の學習に於ける自然の順序である。從つて保育科目とは何ぞやと云はば卽ち子供の活動系統を整理する事如何と云ふ事が問題で決して先生が教材を子供に傳へると云ふ樣なものではない。要は子供の現在の生活を如何に導くべきかと云ふ事でこれは保姆その人の見識に待つ他はない。保育科目などときめるならば之はどうも人爲的になつて子供の現在の生活からかけはなれやすい。元來幼兒の實生活は決して離れ〴〵なものではなく生活を分類する事の出來るものではないが實際取扱の便宜上から之を分類する必要があるとするならばよく幼兒の活動を洞察して如何にすれば子供の生活に應じた分類がなし得るやを考へなければならない。此立場から强いて分けるならば私は自然科、人文科の二つに分ちたい。自然科とは卽ち自然物から直接學習をする事で例へば木の葉一枚についても之が觀察により子供はそれからそれへといろ〳〵の事を經驗する。粘土細工、剪り紙、畫き方など、必要に應じてはこの實物に基いて何を教へてもよいが只實物に依らずいたづらに符號としての文字を教ふると云ふ樣な事をしたくないと私は思ふ。人文科と云ふのは卽ち人間生活の模倣であつて子供が芝居をしたり兵隊ゴッコをしたりする事で、談話・唱歌などは自らこの中にはいつて來る。幼兒の保育はなるべく戶外でしたい。從つて室は屋根だけあるものを多くしたい。戶外でする事は子供が自然界にふれる機會を多くし、

子供は喜んで自然物を取り入れて遊ぶ樣になる。

要するに幼兒教育の方法は米國などで謂ゆるプロジエクト法で出來る丈經驗の範圍を廣くし、場合を多くし、其の生活を一層有效に一層價値あらしめる樣にすべきである、それ故に保育科目を如何にきめるかと云ふ問題は前から述べた樣にその本質に於て既に個々の幼兒の發達に應ずべきものであるから決して小學校の教科と同一視してはならぬ。全くこれは保姆その人の見識如何によるので、何處迄も子供の實生活に基いてその活動の系統を整理する事に根本があると私は信ずる。

米山えん氏(廣島縣三原女師附屬幼稚園)は「幼兒の畫き方の實際案」と云ふ題下に有益な研究發表があつた詳細な印刷物を配布されて懇切に說明されたその內容は改めて次回に本誌上に發表する事とする。

次に京都帝國大學教授文學博士小西重直先生の講演「フレーベルと現代思潮」に移り(別項記載)かくて第一日の會を閉ぢたのは丁度午後五時であつた。

第二日

開會第二日の午前中は市內幼稚園參觀にあてられた。幹部の方々の懇なる斡旋によつて會員は一々案內されて思ひ〳〵に參觀をした。特に此頃設立された大阪市立兒童相談所には三百人近くの來訪者があり、所員は應接に忙殺される有樣の樣に見受けた。全く新しい設備、新しい組織、新しい試みであるので社會事業の一つとして餘程幼稚園關係者の注意をひいた樣であつた。市內各所の幼稚園はこの日平常の通り土曜日の半日保育が行はれたが何れも遠來の客の應接に忙しかつた樣に見受られた。

午後の日程はまた豫定の如く着々進捗した。協議題第七問「小學校との連絡上、幼稚園手技を整理するの要なきか、若しありとせば之が程度分量如何。」(富山縣女師附屬幼稚園提出)は發題者の說明についで質問あり、討議に移りては必要ありとするもの無しとするもの何れも論多く最後に議決となつたが必要なしとの說多數を以て決せられた。第八問「幼兒に敬神尊祖の念を養ふ方法如何」(私立小田原幼稚園提出)の協議題は多くの興味と期待とをもつて迎へられたにも抱はらず、發題者たる該幼稚園より來阪者なかりしために自然消滅の姿となつたのは殘念であつた。次で第六問の協議題に移つた。それは次の樣な題である。

第六問　幼稚園に於て滿五歲以上にして發育良好就

學に堪ふと認めたる者に限り小學校に入學し得る樣法令を改正せられんことを其筋に建議すること

理由

必ずしも滿六歲を待たずして就學に適するもの少からざるは醫學者心理學者の認むるところにして現に或部分の園兒に對し文字を敎ふるに堪ふることは本會の經驗したる所なり既に斯く發達したる兒童を更に一年間幼稚園に停滯せしむることは國民の能力を向上せしむる上に於ても甚しき損失たるを免れず殊に修學年限短縮の喧しき我邦に於ては特に此點の改正を必要と認む是れ本問題を提出する所以なり

京都市保育會提出

發題者の說明についで質問に移つたが豫期した程の發問も出ず、何となく議場は鎭まつて問題の比較的重大なるにも拘はらず沈默の中に時計は徒らに步みをすゝめる有樣であつた。一刻千金の時はかくして進み行くに議長は「質問なしや」と數回云はれた。誰も發言せず、議事は進んで意見發表に入つた。會員の一人が二十五年以前の自己の早敎育の經驗より之を是とし、ついでまた沈默がつゞき、暫くして贊成を宣する一員が壇上にあらはれた。議場は尙も靜かに聲をたてぬ、そこで議長は決をとる事を宣した此の際今更の如く議場はどよめき初めた。贊否の聲喧々として、何れをも解しかぬる、拍手が所々に起り、一しきり騷がしくなつた。其處でこの議題を翌日の日程に讓つて更に討議を續くべしとの說に決せられ、直ちに會は、研究意見の發表に進んで行つた。

神戶市保育會の研究發表は第九「林間保育の成績」の方を先にされた。疲勞研究に就て詳細の報告があつた。これも何れ項を改めて誌上に載せ得る事と思ふ、第四「我園最近の保育方法に就て」名古屋市立第一幼稚園の發表は大要左の如くであつた。

「我園は其園舍は誠に古いもので、今から廿年も前に時の文部省が充分よいものと認めたのであつたが時代の移るとともに今では誠に學校敎室の樣で窮屈の感がある。昨年九月模樣變へをして保育は事情の許す限り戶外で行ひ室內は敷物をしいて家庭的な氣分をつくる樣にし、玩具なども子供が家に於ける如く自由に弄び得る樣にと思ひ、談話、手工なども坐して出來る樣にとしてゐる。一方で話を聞いてゐる者もあれば他方では手工に熱中して居るものもあると云ふ工合に氣分を如何にも自由にする樣にとつとめて居る。家庭的と思ふ所から保姆は袴をつけず帶をしめては如何と云ふ事迄このごろ相談に上つてゐる位である。相圖に鐘を用ひず、組々で先生が受

持の子供を自分の室に待ち受ける樣にしてゐる。全體を集める事は一ヶ月に三回位とし雨の日には皆共同して遊ぶ樣にしてゐる。標本室とか玩具室とか云ふものを特別に置かず各室に玩具を備へてそれを子供が勝手に用ひ得る樣にしてゐる。子供の製作品については一々之を家にもつて歸らせないで一つのものをなるべく長く持たせる樣に、そしてまた簡單なものから次第に復雜に構成して行く樣にしてゐる。例へば染色をすればその出來た紙を更に反物につくり或は人形の着物に仕立ると云ふ樣にして、使ひ得る丈け一つの材料を長く使はせる樣にする。更に子供の作つたものを持ち寄つて一つのデパートメントストアをつくり先生も子供も一緒になつて大に打興ずる事もある。我園では百八十人の幼兒に對して七人の保姆が居るので此頃は出來る丈分團的にして子供の興味嗜好に適する樣にしたいと努力してゐる。

かうした保育を最近一年近くの間研究的に行つて居るのであるが其結果幼兒が何となくのびゝとなつて來て保姆と子供一人一人との間の親しさが增したと思はれる。唯幾分亂雜になつて淸潔整頓などが欠けて來た樣であるが、これらの短所は研究をつゞけ行く中になほす事が出來やうと思ふ。一層この保育法に研究をつゞけて行くつもりである。」

「幼兒の文字學習力に就て」京都豐園幼稚園の研究發表があつたが詳細な記錄が小冊子となつて會員一同に配布されたので此處にはその紹介を省く。

午後三時より倉橋惣三先生の「生活か教育か」と云ふ講演に移つた(この大要は何れ次號に掲載する。)

午後五時一同は池上大阪市長の招待を受け晩餐會に列した。公會堂三階の大食堂に八百餘名の人は食卓につき市長の挨拶會員總代の謝辭終つて會食は初まつた。六時半からは餘興に移り舞樂(加陵蘋の舞)、西洋音樂(三越音樂隊)、淨瑠璃(千代萩……竹本源太夫)ひきつゞいて演ぜられ、歡をつくして家路についたのは夜の九時頃であつた。

第三日

定刻開會直ちに前日の協議題第六問の討議に移つた。問題が法令にかゝはる重大な事柄だけに前日の沈默の時の多かつたにひきかへて今日は餘程論があつた。否とする者、可とするもの、修正を主張するもの保留說を稱ふるものなど一時議場は騷然たる有樣となつた。かくて時間は益々切迫して來た。まだ數題の研究發表が控へてゐる。議長は遂に議決を宣した。多數によりつひに保留と云ふ事で決せられた

次に文部省諮問案に對する調査の發表があり滿場一致で次の樣に調査委員の原案通り議決してこれを大會の議長から其筋に取計ふ事となつた。

文部省諮問案答申案報告

文部省諮問案につき左記之通調査候條此段報告候也

委員長　田中三郎

委員　會津タガヱ、足立由三郎
浦野みち、池上治八
竹田ミネ、岡　政
阪井善兵衛、田村金彌
朝尾清記、田村作太郎
松本朝吉、望月クニ
膳　たけ、及川平治

大正八年拾月十八日

議長殿

調査案

文部省諮問案

幼兒の各年齡に適切なる保育事項如何

本諮問案に對しては文部當局の御說明なきを以て本案の趣旨、其內容範圍の頗る不明なるを遺憾とす玆に於て本會は自由なる解釋を下し適切有效なる具體案を得べく愼重審議し以て左の結論を得たり

本大會に於て幼兒の各年齡に適切なる保育事項を選擇排列し其の具體案を作製するは不適當なりと認む

其の理由左の如し

第一、幼兒の心身の發達は個人によりて差異あり單に年齡のみにより保育事項を選擇排列すべきにあらず殊に個人の自然的傾向を尊重し其の擴充を企つる保育事業に於てをや

第二、幼兒の心身の發達は環境により（特に都鄙により）て同一ならず從つて一の幼稚園に適切なる保育事項と雖も之を他の幼稚園に行ふて必しも良好なりと謂ふべからず

第三、前二項の理由によるも本大會の成案として各年齡に適切なる保育事項の選擇排列を爲し難きは明かなり

第四、保育事業たるや幼兒の全生活を誘掖補導するにあれば徒に遊戲唱歌談話及手技等各別に之を時間に配當して課すべきにあらず宜しく幼兒の生活過程を統一的全體として善導すべきものなり

されば寧ろ小學校令施行規則第百九拾七條を適當に改正し以て保育事業に自由を許す要あるべし

第五、全國幼稚園に對して劃一的の保育事項を定むるは却つて弊害多く且又保育事業の進展を妨げるの虞あり

然れども各幼稚園に於て大に研究調査を進め其資料に基き幼兒の各年齡又は其の心身發達の程度に應し適切なる保育事項を選擇排列して實施する事は大に望むところなり

要するに保育事業の良否は常に熱誠にして研究的態度を有する善良なる保姆其の人を得るや否やにより て決せらるものなり

されば當局に於て全國幼稚園に對して速に優秀なる人材の招致案を講ぜられんことを希ふ。』

續いて「文字及數に關する事項」の調査の報告があつた。委員長の說明に對して二三の質問あり、修正案も出たが最後にはやはり調査委員の原案通りに左の如く決定される事になつた。

文字及び數に關する事項報告

第三、第四、第五協議題につき左記之通り調査候條此段報告候也

委員長　土川五郎

委　員　松山政治、松山マツノ

吉岡　歌、折井彌留枝

米山えん、岩内誠一

浦川ハル、山崎ときの

議長殿

調査案

一、幼兒は小學校に入學前に於て文字を知らんとする慾求盛に起るが故に之に對して滿足を與ふるを至當と認む

二、取扱方法

遊戲的に之を取扱ふべし、强いて之を知らしめんとするが如き弊に陷らざらんことを要す

注意事項

1. 各幼兒が讀まんとし又は書かんとする要求に對し相當なる滿足を與ふるを以て程度とすること

2. 文字は片假名及數字の範圍に止むるを適當とす

3. 幼兒の文字に對する慾求を滿足せしむることは取扱上の一部に過ぎざるを以て保育上過重視せざらんことを要す

5. 幼稚園保育を終りたる兒童に對しては國語敎授上小學校に於て十分考慮ある取扱あらんことを希望す

三、幼兒期は未だ數觀念發達せざるの時期なるを以て之が初步觀念を與ふることを否と認む

以上

次に研究及意見の發表に移つて。「保育上の所感について」大阪市東區愛珠幼稚園の研究發表は其主意は大要次の如くであつた。

個性教育を重んずべき事、そのためには(1)先人の發見した眞理を徹底的に忠實に學ぶ事で、子供に對しては徹底的に教ふる事が個性教育の第一の要義である。(2)個性は昔から反對の境遇に立つ事を經て來て居る、それ故に子供を同一の型に入れると云ふ事は對立的個性の教育法をする事で少しもこれと矛盾はせぬ。

自發活動式にまかせて教師が傍觀的になるのは教師の教化の能率が減ぜられる。それ故宜しく教育手段を定めて目的を徹底せしむるがよい。」

尙も研究發表は七題ものこつてゐる。時計は既に十一時を過ぎた。この時大阪市の一役員より、京阪神に屬する發表は之を聯合保育會誌上にのせる事として今は遠方より來會の諸氏にのみ發表の時を與へては如何と云ふ發議が出て滿場この意を贊成して第十二「幼兒の畫き方に對する研究」(富山女師附屬幼稚園)及第十三「人生の三大教育」(福島縣私立博愛幼稚園)の研究及意見發表があつた。

富山縣の發表は大要左の如し。

一入園時代の幼兒と畫き方發表

家庭に於ける幼兒の表象的繪畫嗜好　入園後に於ける畫き方の嫌忌、之が原因と救濟方法

一幼兒に畫き方をなさしむる時期

三才、四才、五才孰れを可とするか　年長兒を可とする說　時期は如何(四年第二期より)　本園に於ける實際的研究

一幼兒に畫き方をなさしむる方法

初步觀念の養成　豫備練習　自由練習時代に於ける幼兒の性情發揮　畫き方用具＝雜記帖　鉛筆　色チョーク　雜記帖使用の理由　雜記帖使用後の方法　用具の取扱ひ方に對する幼兒の實際　畫き方に對する多大の興味と期待心

一初步の畫き方に於ける材料の精選

最初の成效は幼兒に多大の感化を與ふ　幼兒の好愛する色彩觀念　描き方に對する趣味の喚起　手腕筋肉の練習に足る材料

一野　原　後ろの野原、幼稚園の原等實際的命名　幾度も輕く塗抹せしむ、緑、お日樣、圓形を與へて畫かせ赤く塗らしむ、野原に日の補充畫

二美しい野原　練習的にして色彩、空、青、日赤、草緑

三野　遊　び　人物を加ふ、人　繁簡　數種、靜的なるもの、活動的なるもの、自由撰擇、自由發表

四お　庭　の　菊　花赤と黃、概形を捕へて其趣を描くを度とす、隨意補充畫

五菊　の　應　用　大小不同のもの、人が花を見るもの、折るもの、共に語るもの等應用自由

六日の丸の旗　鉛筆にて輪廓を描く、運筆日の丸をまる

く塗る　應用　旗祭り、旗行列等隨意

七軍　艦　旗　旗を描き斜線を引く、交叉點を赤く塗りて日の丸となす、應用　軍艦

八軍　旗　*紫色の總を附す、總は其趣を寫すを可とす　應用　兵隊さん、軍ごつこ、各種各國の旗

九幼兒自由發表　此處までなさしむれば、幼兒は畫き方に對する非常の興味と、技能の初步要領と、色彩に對する色の鑑識力と美感とを知り、自由に思想感情を發表するに至る

一幼兒になさしむる繪畫の種類

臨畫　記臆畫　想像畫　看取畫及寫生畫　圖案畫

幼兒になさしむる寫生畫の意義　本園、幼兒等の寫生畫實際圖案畫の方法

一畫き方に對する指導方法及注意

イ　思想感情の發表を主とす、故に形式に付て餘り云爲するの要なし

ロ　幼兒の觀察は皮相的なるを以て、內容少く、概念的なるを免れず

ハ　繪畫に對する認識は、感情的にして理解的ならず、されば不自然なる人工的摸倣は、心理的要求に適せず、故に思想の自由發表を主とし、趣味に依て描寫せしめ、正確は第二段とすべし

ニ　趣味は次第に觀察力の修練、概念の發達漸く進むに從ひ、手指練習の必要を生ず、故に發表的手法の摸範茲に於て大に必要となる

ホ　子供は斷片的思想の表出を主とす、故に之を組立てゝ意義ある畫となすことを指導すべし

ヘ　時間季節、實際の有無に無頓着なり、故に適當なる批評を下し、實際化せしむべし

ト　觀念不明のため要點を逸す、故に着眼點に留意せしむべし

チ　幼兒相互の畫によりて、思想を豐富にし、且つ批判せしむべし

リ　子供的にして、しかも技能ある繪畫、繪本、黑板畫等により鑑賞力を養ふべし

ヌ　幼兒の思想を尊重し、其發展を妨げず益々進步助長せしむべし

一本園幼兒等の畫き方に對する狀況と結果

一畫き方の巧拙と入學後の學力殆ど相一致し、中等程度に至るも變らざること

一結論　保育上畫き方の敎育的價値多大なること。』

閉會に先立つて第三回全國幼稚園關係者大會についての協議が起つたが結局第二回全國幼稚園關係者大會の殘務委員に無條件で一任する事に決した。

池上會長の懇篤丁重なる閉會の辭（代讀）がありこゝに首尾よく會は終つた。時既に午後一時。

一同は三階大食堂に於て晝餐の饗應を受け（主催者側よりの招待により）直ちに市內參觀に出掛けた

特に大阪商船汽船紅丸に便乘築港を見る事が出來た。

三日の間晴天は續いた。大會役員の心盡しは實に到れり盡せりであつた。

大會餘錄

今度の大會で幹部殊にも開催地たる大阪市の役員の方々の行き屆いた御世話には出席者一同の深く感銘した所でした。新柄松茸狩や遊山の好季節とて市内の旅館は何處も滿員の有樣その際に遠來の出席者のために宿の世話までして下さつた御親切には全く恐縮の外はありません。一室に數人陣取る樣になりましたが、これが反つて皆にとつては親睦の好機會でした。公會堂から歸つて、やれ〳〵と疲れをやすめると、一室の數人さては隣室の方々まで招き入れて車座になつて話が初まります。お互に初めて出會つた異鄕の人々、わからない方言の會話もかへつて親しみの種となります。心打ひらいて面白い事可笑しい事打興じての物語りは、同じ道に携はる人の同じ心に一致する嬉しさでせう。ことにも最終の日の夜はまた一しほ樂しい集りが彼方の室此方の隅に開かれました。夜は更けて行きますしかし話はつきません。「さあ來なされ〳〵」と寢卷姿になつた誰彼もこの車座のまとゐに呼ばれます。柿がむかれる。蒸菓子がひらげられる。兩手をつかねてたゞ口だけで煎餅を食べ樣とする藝當の練習に餘念のない熱心家もあらはれる。「召しあがれ〳〵」今宵限りの饗宴に花が咲きます。「私は餘興係りです」と町で買つて來た玩具をならべてブリキの鷄を板の上に歩かせるのに夢中の人もゐます。「まゝごと」と道具を鑑賞しながら人生を論ずる人もゐます。「本當に私達は幸だ、子供を遊ばせてゐるお陸で子供の樣な氣分でいつも若々しく樂しい氣持ちが何處へ何つても去らない」と一座の中の年長の人が云ひ出します。「旅に來てゐながら旅の氣分が少しもしない、右を見ても左を見てもお友達ばかり」とニコ〳〵する初旅の若い先生もゐます。明日はまた西に東にわかれて行く人達が僅か三日の間に十年の知己の樣な親しさに、別れを惜しむ心持ちには云ひしれぬ床しさがあります。（T　子）

○倉橋主幹の留學

本會主幹倉橋惣三先生には今回文部省より英米佛に留學を命ぜられ、向ふ約二年間海外に遊學さるゝ事となりました。本會のために、又ひろく我が教育界のために誠に慶賀の至りであります。

先生は來る十二月十三日横濱出帆のコレア丸で渡米なさる事に略内定されたそうです。

月夜の兎

（變口調）

2/4
6 3 6 3 | 7 7 3 3 7 7 3 3 | 6 3 6 3 | 7 7 3 3 6 6 3 3 |
ポッタン ポッタン ヤレ ツケ ソレ ツケ ポッタン ポッタン ヤレ ツケ ソレ ツケ
ピョンピョンピョンピョン ヤレ トベ ソレ トベ ピョンピョンピョンピョン ヤレ トベ ソレ トベ

4/4
6 7 i 7 | 6・7 4 3 | 6 7 i 3 | 7 ——・0 |
コ ガ ネ ノ ウ ー ス ニ ギ ン ノ キ ネ
コ ガ ネ ノ ウ ス ヤ ラ ギ ン ノ キ ネ

6・7 i 7 | 6・4 3 3 | 6 3 7 6 i 7 | 6 ——・0 |
ツ キ マ ス オ モ チ ハ ツ ウ サ ン ナ ナ ツ
ツ ー キ ノ ヒ カ リ ニ ツ ー カ ー サ レ テ

3 — 3 i | 7・i 7 6 | 3 6 7・6 | 7 ——・0
オ ー ツ キ サ マ ニ モ ア ゲ マ セ ウ
ツ ー キ ノ セ カ イ ニ ト ン デ ュ ケ

3 — 3 i | 7・i 7 6 | 3 6 7 i | 6 ——・0 |
オ ー ツ キ サ マ ニ モ ア ゲ マ セ ウ
ツ ー キ ノ セ カ イ ニ ト ン デ ュ ケ

月夜の兎

水田氏修身談話の歌
高澤氏作曲

（一）
ぽつたん〳〵、
やれつけ、それつけ
ぽつたん〳〵
やれつけそれつけ
黄金の臼に銀の杵、
搗きますお餅は十三七つ。
お月様にもあげませう。
お月様にもあげませう。

（二）
ぴよん〳〵〳〵〳〵、
やれとべ、それとべ、
ぴよん〳〵〳〵〳〵、
やれとべ、それとべ、
黄金の臼やら銀の杵、
月の光にうかされて、
月の世界に飛んで行け、
月の世界に飛んで行け。

表情遊戯

土川五郎

月夜の兎

水田氏修身説話の歌
高澤作氏曲

一、**ポツタン〳〵** 拍手二回
ヤレツケ 兩拳を胸前に(右を上に左を下に)持ち來りうすを握りたる如くして一回搗く
ソレツケ 尚一回つく
ポツタン〳〵 前と同じ表情をなす
ヤレツケソレツケ 前と同じ表情をなす
コガネノ臼ニ 掌を開き左右を向き合せ兩肱を引き更に兩側より圓形に體前にて臼の形を作る
ギン 左拳を握り胸前に出し
ノ 右拳を握りつゝ左拳の上に臼を握りたる如くす
キネ 一度上にあげてネにてつく
ツキマスオモチハ つくこと四回
十(ジュウ) 兩手を開き體前斜左右上に(掌を上に)出す共に拇指を屈す
三、**ナ、ナ、ツ** 四回順次に指を屈す
オツキサマニモ 兩掌を開き左右側に下ろし更に兩側より頭上にて兩指先を合はす
アゲマ 兩側へ下ろし兩手にて物を受ける如く(體前にて二稍上に捧げ
セウ 禮をなす
オツキサマニモアゲマセウ 前に同じ表情をなす
二、**ピヨン〳〵ピヨン〳〵** 拍手二回
ヤレトベリレトベ 兩肘を屈し左右の手の甲を兩肩の方に向けて二回兎の飛ぶ如くす
ピヨン〳〵ピヨン 拍手二回
ヤレトベリレトベ 前と同じ表情をなす
コガネノウスヤラ 第一の歌と同じ
ギンノキネ 第一の歌と同じ
月ノ光リニ浮サレテ 兩手を左右に開き掌を下にし兩手を上下に柔かく動かしつゝ初めに體の重みを左足に托し右かゝとを浮かせ次に右足に體の重みを托し左かゝとを浮かせ交互になすこと八回、此の時同時に右上を眺め次に左上を眺む
月ノ世界ニ 兩手を兩側より大きく頭上にあげて兩指先を合せ上を眺む
トンデユ 兩手をしなやかに左側下方に流し
ケ 兩手に物を受けたる如くして斜右上方へ投げやる如くす
月ノ世界ニトンデユケ 前に同じ表情をなす

大坂市立兒童相談所を訪ふ(一)

一會員

今度の大會に出席したを幸に一日、大阪南區官津町三五七番地なる大阪市立兒童相談所を訪問いたしました。所長竹村一先生の懇切なる說明とその至大なる抱負とを承り興味深く感じた私は些かこの事業の概略を皆樣に紹介致したく存じました。

該相談所は本年七月一日より開所された相ですがその事業の概要は左表に明らかであると思ひます。

- 兒童敎養ニ關スル相談
  - 母親ノ敎養
    - 母親ノ敎養ニ關スル事項
      - 「母」トシテノ敎育
        - 兒童敎養ニ關スル講習會、講演會、研究會、及「母」ノ會
        - 女子敎育機關及婦人會トノ連絡
      - 姙婦ノ敎養
        - 攝養法
        - 育兒法
        - ニ關スル口述又ハ書籍ノ選定、紹介
      - 乳兒ノ養護
        - 乳兒ノ取扱法示敎
        - 乳兒榮養品ノ檢査及ヒ榮養ノ示敎
          - 選擇法
          - 授乳法
          - 稀釋法
    - 母親ノ敎養ニ關スル研究、調査
      - 母性ノ敎育ニ關スル研究調査
      - 母親保護ニ關スル研究調査
      - 母親勞働ニ關スル研究調査
  - 第一部、醫學的相談
    - 乳兒ニ關スル醫學的診査事項
    - 正常ノ發育ニ關スル事項
    - 疾病ノ有無ニ關スル事項
    - 特殊兒童ノ醫學的方面ニ關スル事項

及研究

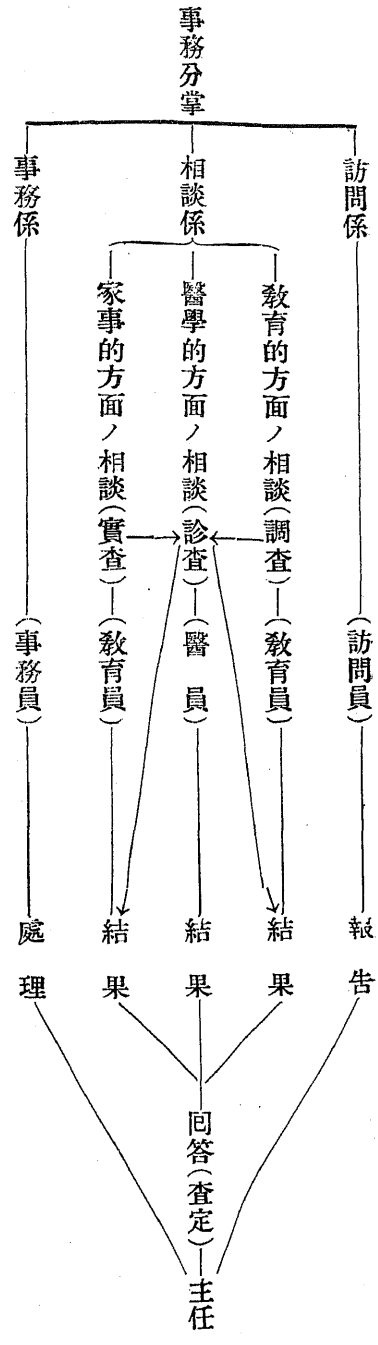
- 兒童ノ教養
  - 兒童ノ教養ニ關スル相談
    - 第二部及第三部ノ相談事項中醫學的方面ニ關スル事項
    - 第二部、教育的相談
      - 教育ニ關スル事項
      - 職業選擇ニ關スル事項
      - 特殊兒童ノ精神的方面ニ關スル事項
      - 運動遊戯ニ關スル事項
    - 第三部、家事的相談
      - 食物ニ關スル事項
      - 衣服ニ關スル事項
      - 住居ニ關スル事項
      - 娯樂ニ關スル事項
  - 兒童ノ教養ニ關スル研究、調査
    - 乳兒ニ關スル研究、調査
    - 大都市兒童心身正常標準ノ研究、調査
    - 大都市兒童ノ教育ニ關スル研究、調査
    - 少年職業、兒童勞働ニ關スル研究、調査
    - 特殊兒童ノ心身ニ關スル研究、調査
    - 兒童ノ運動、遊戯、娯樂ニ關スル研究、調査

註

當所ニテ兒童ト稱スルハ滿二十歳以下ノ男女ヲ云フ

當所ニ特殊兒童ト稱スルハ左ノ三種トス

- 甲……身體薄弱兒童
- 乙……精神薄弱兒童
- 丙……精神低格兒童



兒童の研究はその身體の方面を基礎とすべきで從つて先づ醫學上から出發して兒童の健康診斷を行ふ事を第一にせねばならぬと云ふ事が竹村先生の主義です。それ故この相談所ではどんな種類の相談でも必ず一度身體檢査を行ふ事になつてゐます。

此處で兒童と云ふ中には乳兒期から滿二十才迄が含まれてゐますが實際相談に來るのは乳兒期から小學校期のものが多いそうです。受相談人員は平均一日廿名位で午前は主に所員の研究時間にあて、午後を實務の時と致してゐます。

先づ相談に來る人があると、受付は其の來意を問ひそれに由つて醫學的相談か教育的相談か、家事的相談かを定めます。子供を連れずに相談に來たものは必ず次の時に連れて來させます。そして綿密に身體檢査を行ひます。その際に全く專門醫にまかせねばならぬ疾病あるものは直ちに相談所から紹介狀をそへてその方に送ります。格別の疾病なきものに於ては別に出來た表に詳細に診斷の結果を記入して其の相談の要件が教育に關する事ならば又次の日に來所させる樣にして、その間教育部の係員は診斷書の中から自分に必要な項目の所だけをかきぬいて次に來た時にいろ〳〵尋ねて相談をするのです。

其のためには家庭訪問やら學校に問合せをするやら實務は仲々繁雜になつて參ります。

相談をすると申しましても其場で係員が卽答すると云ふ樣な輕卒な事は致しません。前掲の「事務分掌」の表にもある樣に各部で愼重に調査し各々が意見を具して之が主任の所に集まる譯です。それには個性診査表が甲、乙、丙、の三通りあつて、醫學部（黑色刷）敎育部（綠色刷）、家事部（赤色刷）（これは計畫中）となつてゐてそれに記入するのです。その甲も乙も其の表の形式が私共幼稚園關係者にとつて餘程參考になると思ひますので、何れ次回に其表を紹介致しませう。

一方に家庭訪問部員はそれ〴〵に活動致しますが、もし直接當該の家を訪問する事の出來ない事情の場合などは近隣で問合せたりして出來るだけ事實を慥かにする樣に努めます。かくして相談を受けた兒童一人一人に個人的指導を與へ適切なる回答をなすに遺憾なからしめるために力を盡して調査考究する譯です。因に家庭訪問錄の樣式は目下次の樣なものを用ひて居るそうです。

（家庭訪問錄）

家庭																		
	父			母	場所			主業及副業			住居		
こども	姓名												
	年齡												
	營養及現狀												

フリードリッヒ
ヘッベル

わが幼時（三）

艶子譯

五

前に私は、スザンナの學校に居つた頃、二つの要點に觸れたと云つたが、實はあの時に三つあげて置くべきであつた。しかし、今云はうとするこの第三の要點は、これを如何に高く又低く評價しやうとも一度回顧するに至れば、兎に角これは人生に於て唯一無比のもので、從つて誰でも之を他のものと同列に置く事は出來ないものである。

私は、あのスザンナの陰氣な教室で、卽ち、また、戀を知つた。しかも私があの教室に初めて這入つたその瞬間、因つて私の四才の時である。この初戀！これを讀む人が誰か笑はない人があらう！しかしまた誰か何處其處のアンナとかマーガレットとかを思ひ浮べない人があらう！その人達が嘗つては星の冠を載いて、空色の或は晨の黃金色の衣を纏ふてゐる樣に美しく思はれた、その姿を！、そしてそれが今おそらくは、――その反體の姿を委しく畫く事は婦德をけがす事であるからこれは止めて置かう――！しかしまた、誰か斯う告白しないものがあらうか。「あの當時は、私は舞ふが如くに、浮世の樂園の蜜のうてなの傍を摺れ違ひに通り過ぎた、實にあんまり速いので酩酊する事は出來なかつたが、しかしその氣高き晨の香を吸ひ込むだけの充分の時はあつた。」と。

あの美しい五月の朝、私は今思ひ出しても微笑まざるを得ないが、この日私は初めて學校に送られた尤も、とうから定められてゐたのを、その日が幾度もかへられて延び〳〵になつてゐたが、つひに、自分の家をはなれて學校に行くと云ふ私にとつては一大事件の日が決定したのであつた。「坊ちやんは、きつと泣くでせうよ。」夕方前にメタ（同居人の一人）は恰も未來を知つてでも居るかの樣に、神巫の樣な風に點頭きながら云つた。「いや、坊ちやんは泣きはしますまい。が、癇坊をするだろうよ。」と隣人オー

ルが答へた。「いや〳〵、坊はなか〳〵強いのだ。朝も、ちやんと問に合ふ樣に寢床を出る。」とオール家の氣のよい老人が言葉を挿んだ。またこの老人は附け加へて云つた。「私はいゝものを持つてゐる、が、もし坊やが明日の朝　七時に、ちやんと顏を洗つて着物を着替へて、私の戸口の所へ來る事が出來たらそれを上げやう。」と。私は正七時にこの隣人の所へ行つたそして褒美に小さな杜鵑を貰つた。私は七時半迄は元氣よへ、犬のモップスと遊んだ。七時四十五分になつたら心細くなつて來た、然し八時頃になつてまた全く男らしくなつた。何故ならこの時にメタが這入つて來たら。私はあのヨハンバールホルンの、玉子を生む牡鷄の繪のついた、新しい入門書を

註、ヨハンバールホルンは十六世記頃の印刷業者で自ら教育界の新人を以て任じ、盛に改革をしたが、多く改惡となつた、この入門書の表紙の繪は初め牝鷄だけであつたのを、この人が卵がなくてはいけいなとて卵を書いた、それはまだ善かつたが鷄の距が短いとて之を長くした、そこで丁度牡鷄の樣になつてしまつた、即ち此處では卵を生む牡鷄と云ひ、この改惡せる入門書を諷してゐるのである。

小脇に抱へて元氣よく出掛けて行つた。母は私を晴れがましく入學させるために、一緒に來て呉れた犬のモップスもついて來て呉れたので私は全くの孤獨でもなかつた。知らぬ間に私はスザンナ先生の前に立つて居た。先生は校長の椅子に座を占めて、私の頰を爪で彈き、私の髪の毛を撫でた。私の母は、大に元氣を出して嚴格な音調で私によく勉强せよとか、先生の云ふ事を聽かなければいけないとか注意を與へて、復た私が氣弱くならないためにと、急いでサッサと出て行つてしまつた。モップスは何方に附かうかと暫く決しかねた樣子であつたが、遂に母の方について行つてしまつた。私は金紙で出來た聖者の像を贈物として貰ひ、それから、席が割り當てられた。此處に私はブン〳〵、ズン〳〵とやかましく唸る、子供と云ふ蜜蜂の巢の中に編入せられた。この子供達は私の入學の手續を面白がつて、また授業がこのため中絶したのを喜んで、私を眺めてゐた私は皆にジロ〳〵見られてゐると云ふ事を直觀したので、暫く顏を上げ得なかつた。遂に私は顏をあげた。その時、私の最初の一瞥は一人の背のスラリとした青白い顏をした女の兒の上に落ちた、この子は丁度私の向側の席に居た。名をエムリーと云つて教會書記の娘であつた。一種情熱的の戰慄が私の全身

に起り、血が心臓めがけて突進した。しかし、恥しさの感じが私の最初の氣持と混つて、私は直ぐにまた眼を床に投げた、何となく惡い事でもした樣な氣がして。この時以來、エムリーは最早や私の心の中を去らなかつた。此れ迄恐れて居つた學校も、今は私の好きな場所となつた。それは私がエムリーに會へるのは本當に學校でだけであつたから、それ故日曜日や祭日は全く嫌になつた。エムリーの事さへなければそれこそ大喜びで休むのだが、これあるために今は前にお休みを樂しんだその喜びと同じ位、厭になつた。どうかしてこの子が缺席でもすると私は實に悲しく思つた。私が行く所、私が居る所、到る所に彼女の姿が目の前につちらく。私が一人ポツチになると、幾時でも私はひそかに「エムリー」「エムリー」と名前を口に出して云つて見ていつまでも倦なかつた。取分け、あの眞黑な眉、あの大變に紅い唇はいつも眼の前にチラついた。之に反して私は實際その當時に彼女のものごしがそれ程私の眼についたかどうか今思ひ出さない。しかも後年になつてはこのものごしの方が遙に大切な事であつたのだが。

扨私は、まもなく學校中で一番勤勉な生徒、一番よい生徒と云ふ賞讃を克ち得た、これは解り切つた事であるが。(日曜祭日は嫌ひ、學校へ行くのが何より好きと云ふのだから、)でも私には少し妙な氣がした、と云ふのは私を學校へ行かせるのは入門書でもなく、讀み方も早く覺えやうためでもなく、又まめ〳〵しく綴りを覺えたいためでもない事を、私は自分でよく知つてゐたから。

誰にも、またエムリーにも、私の心の中に起つてゐる事を氣付つかれない樣にと私は骨折つた。私は自分の祕密をさとられまいと思つて一生懸命になつてエムリーを避けた。皆が一緒になつて遊戯でもする樣な時には私はエムリーに對して何か親しみをあらはすよりも、寧ろ反つて敵意を示した。私はせめて一度でも觸れて見たいために、彼女の後にまはつて髮の毛を引張る、それも嫌疑を引き起さないために私は、いやと云ふ程ひどく引張つて、彼女に苦痛をあたへる樣にした。

ところが、いよ〳〵天性が力づよく道をひらかれたそれはあまりひどい試練をうけたから。と云ふのは外でもない、ある日の午後、授業が初まる前、子供達はそろ〳〵と教室に集つてくる、スザンナ先生は

まだ心地よい晝寢から目が覺めぬ、この時の教室は謂ゆるドタバタ時間で實に大騷ぎであるが、此の時私にとつて一つの最も悲しむべき光景が起つた。エムリーが一人の男の兒に虐められてゐる、その男の子は私の一番仲直しの友達だ、彼は、エムリーを甚く引張つたり捻つたりした。見てゐる私はます〳〵高まつて來る人知れぬ憤慨の思をヂットとおさえてまだしも忍んでゐたが、つひに彼はエムリーを片隅に追ひ込んだ、今度また引張り出した時、エムリーの口から血が流れてゐる、おそらく彼が何處かで引掻いたに相違ない。此處に於て私はもはやこれ以上我慢が出來なくなつた。血の光景が私を狂暴にした私はこの男の子に襲ひ掛り床の上に投げ倒し、打擲のかぎりをつくして二倍にも三倍にも仕返しをした所がエムリーは私が何時迄たつても止めないので私に感謝するどころでなく、かへつて自分の敵のために助けを叫んだ、そこでエムリーは讐を打つ私よりも寧ろ虐められた敵の方を愛してゐると云ふ事を期せずして露はしてしまつた。この騷ぎにスザンナ先生は微睡が覺めて急いで室へ來た。彼女としては無理もない事だがブツ〳〵云つて大いに不機嫌で私の突發的の暴行に對して嚴しい辨明をせまつた。私はつかへ〳〵吃りながら辨解したが、自分にも何の事やら解のわからない道理にも合はぬ事を云つた。この私の臍の緒切つて初めての「婦人保護」に對する返禮としては私はまことに粗野な折檻を受けたのであつた。

この愛情は私の十八歳の時迄つゞいた、もとより種々の段階を通つたが。私はまた、この自叙傳の中に幾度か此の點に觸れねばなりますまい。

七

私は幼少の頃から、人並みはづれて想像力が強く働く子であつた。私は晩方、寢床に寢かしつけられると幾時でも私の頭上の桁がウネ〳〵と動き初めて來る。室の隅と云ふ隅、角と云ふ角からは、怪物の顏が眼をむいて來る。また、晝の間、私が馬のかはりに乘つて遊んだ棒などは、私には誠に親しみあるのであるのにその棒も、さては、机の足も、否自分の着てゐる夜具の花模樣や、唐草模樣までが、皆、緣も由緣もない物の樣に思はれて、恐怖の念を起させる種となつた。私は、子供のもつ恐怖には二

つの種類があると思ふ。其一つは殆ど例外のない位にどの子供にもあるもので、取りとめのない一般的の恐怖、今一つはこれよりも更に程度の高い恐怖である。この後のものはその恐ろしい幻想が切つた樣にクッキリとした形をとつて現實し、しかも子供の頭にその幻想が實際客觀的に有るものと信じさせるのであつて、この二種の恐怖は區別して考へる方がよい。扨この初めの方の恐怖は私の弟も持つてゐた弟は夜は私の側に寢たがしかし彼は眼をつぶればすぐにグッスリ朝迄寢込んでしまふのが常であつた。後の種類の恐怖は實に私一人で苦しんだのであつたこの恐怖のために私はなか〳〵寢られない、折角寢たと思ふと、すぐに怖えて眼をさまし眞夜中によく「助けてくれ」と叫ぶ樣な事もあつた。この幼時の恐しい幻想がいかに深く私に印象されてゐたかは次の事を考へてもよくわかる。卽ち私がひどい病氣をするときつとその幻想が昔のまゝの强さで現はれる、殊に熱でうかされて意識が朦朧となる樣な時に、その幻想は、後年に得た多くの印象を驅逐し、その武器を奪ひとつて、昔のまゝの姿にあらはれて來るのであつた。もつとも、この想像力が時として異常に寧ろ病的に働く事もあつた。と云ふのは私の醜い人を見るともうゾットしてしまふ。——私の弟などはそんな人にあつても怖がるどころか、かへつて面白がつて笑つてその樣子を眞似たりするのに——。例へばこんな事もあつた。三角なりの顏をした死人の樣に蒼ざめた小柄な傴僂の仕立屋、しかも度はづれて長い耳をして、おまけに其れが眞赤で透き通つてゐる、この人が私の家の前を通ると、私は幾時でも叫びながら家に馳せこんだ。時には怖いあまりに「惡魔の使が」とどなつて逃げ込む、すると、この仕立屋が大變に腹立てゝ「この馬鹿小僧」とどなつて追ひ馳けて來て「お袋が家でそんな事を云へと敎へるんだろう」とえらくブッ〳〵母を罵つて來る、この時などは私は殆んど、もうそのまゝ死んでしまう程に怖しかつた。

また私は骨と云ふものを見るのが大嫌であつた、庭などで、ごく小さい一片でも見付けやうものなら私はすぐ之を埋めてしまつた。否、後にスザンナ先生の學校に行く樣になつてからも入門書の中に「骨」と云ふ字があると之を爪で削りとつてしまふ、それは字を見てさへ、あの、胸のわるい品物がマザ〳〵

と眼のまへに浮んで來て、不快な、黴くさい形が、其處にある樣に思はれたからであつた。この反體に私はまた風が垣根越しに吹きおくる薔薇の葉一枚を見ても外の子供がバラの花を見た時と同じに否それ以上に嬉しく思つた。そしてまた、チューリップ、百合、櫻桃、杏、林檎さては梨など云ふ言葉を聞いた丈でもすぐ私はそれ〳〵に春に、夏に、秋に、直接その時の氣分になつてしまふ事が出來た。それであるから、入門書の中にかうした文字が出て來ると私は他の所よりも大きな聲で喜んで讀む。運わるくかゝる課が私の讀む番にあたらないと、私は幾時も殘念で堪なかつた。

遺憾な事には、この世では我々は廓大鏡を用ふる場合よりも縮小鏡が必要な場合の方がヅット多いがあの華やかな幼年時代も亦この例にもれない。馬が人間を尊敬するのは其の眼の構造上から、人間が巨人の樣に見えるからであると、よく世人が云ふが、特に想像力のつよい子供に於てはまたこれと同じ樣で一粒の砂粒でも、外でもない、たゞ、これが越え難い大きな山の樣に思はれるために、子供はその砂粒のまへにヂット立ち止まる。かゝる場合を考へて見ると、物そのものの大小は、標準にはならないので、その物が投ずるその影がどうであるかが問題である、だから父親が可笑がつて笑つてゐる事を、一方に息子はその同じ事に對して地獄の責苦になやむと云ふ樣な場合がよくある。つまりそれは、父と子と事物を量るその秤が兩方、根本的に異つてゐるからである。それ故、事それ自身はたとひ滑稽な出來事であるにせよ（私には主觀的に重大事であつたとすれば）それが實際、教育上、一つの重要な點に光を與へる事ともなろうと思ふ。と云ふのはかう云ふ事があつた。

ある日、晝飯時に私はメリケン麵麭を買ひに行かされた。パン屋の伯母さんがその時パンを呉れた序に、何でも片附け物をした折、何處からか出て來たものらしい一つの古ぼけた堅果鉗を、大にキマリを見せて呉れた。私は今迄一度もかう云ふものを見た事も使つた事もないので、あの頬の赤い、眼のパッチリした可愛らしい人形と同じ樣なつもりで、兎に角これを受取つた。喜んで歸途につき、その堅果鉗を新奇の愛好物として柔しく胸に抱きしめた、フト氣が付いて見ると鉗は大口あいてゐる。私が愛がつ

てやる御禮に凄しく白い齒をむき出してゐる。――この時の私の驚きはどんなであつたらう。！――私はキャッと叫んだ。私は何かに追ひかけられた樣に夢中で向側へ馳け出した。しかしこの時私はこの怪物を放り出してしまふと云ふ勇氣も考へもなかつた。私が馳け出すとその動作につれて或は口を閉ぢ、またカット口を開く。だから私はこの鉗が生きてゐると考へざるを得ない。半死半生の有樣で私は家に馳け込んだ。此處で私は先づ嘲笑はれ、又いろ〳〵理由を云つて聞かされ、とう〳〵終りには叱られた。しかし何にもならなかつた。この怪物が私に害はしないと云ふ事は解つたが、どうしても仲直りは出來ぬ。「近所の子供にやつてしまへ」と云ふ許容が出て初て胸撫で下したのであつた。私の父はこの話を聞いて「こんな事をする餓鬼は二人とありやしない」。と云つた、本當にそうだ、恐らく、夕暮方になると堅果鉗の親類共が早くも既に床と云はず天井と云はず現はれ出て種々の顏をして見せるのを見た子供はたしかに二人とはなかつたであろう。

私のプッ〳〵湧いて居る想像は、夜半夢見る時にその極點に達した。それは前後七回繰り返へされた程で全く私には奇怪至極なまた強い印象をのこしたその夢と云ふのは私にはかう思はれた。神樣が――日頃神樣の事はよく聞かされて居たが――天地の間に一本の繩を張つて私をその中に入れて、神樣御自身は私を搖ぶるためにその側に立つていらつしやる扨私は、休む事なく慰ふ事なくめまぐるしい速さで彼處此處を飛びまわる。今や私は高く雲の上に登り、髮の毛が風に靡く、私は痙攣的にシッカリと身を支へ眼をつぶる。と思ふと私は再び地上に近くなり、黃色い砂や、赤い、白い小石が手に取る樣に見えるイヤ、爪先がもう地に屆きそう。そこで私は飛び出そうと思ふが決心しかねてゐるその中に、またもや高く上つてしまひ、たゞその繩にしがみつくより外仕方がなくなる。そうしなければ私は轉げ落ちて粉微塵になつてしまふから。

この夢のあつた週間は恐らく私の幼年時代の最も怖しい時期であつたらうと思ふ、何故なら、この夢の思ひ出は其の日一日中去らず、晩方になつて厭でも無理に寢かしつけられると、「またあの夢を見はせぬか」と云ふ不安を寢床まで、否、眠の中まで持つて行くので、またその晩もその怖い夢を見る樣になるのは無理のない事である。しかしこれもその後、日の經つとともに次第にその力が弱くなつて行つた。

本誌は最も平易な、最も教育的な子供繪雜誌たるべく苦心して居ります

コドモ

編輯顧問 高嶋平三郎先生

幼童雜誌 良友

本誌はコドモの兄樣姉樣に當り、小學生の讀物として最も適當な雜誌です

近來子供雜誌や繪本類が非常に多くなつて、既に二三十種に達してゐる。

世の父兄諸氏は、この多くの同種中、はたして何れを子弟の爲に選ばるゝであらうか單に玩具と見做して、その選擇を慢然兒童の取捨に一任して置いてよいであらうか。

發行所 東京市小石川區林町五十七番地 コドモ社 電話 小石川 六一一八 九二一二

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
幼兒教育　第十九卷第十一號　大正八年十一月三日納本　大正八年十一月五日發行　印刷所　凸版印刷株式會社本所分工場

新思潮に適合せる

極大形（最長三尺）ヒル氏の積木

ヒル氏はニューヨーク、コロンビヤ大學の師範科主任で、此の積木は、氏が十五年間幼兒に實施して組織したものである。ヒル氏の說明に由ると。

一、小積木は、目及手の小筋肉練習に兼ねて座業的習慣を養ふには適して居るが、此の時期に於てはより大なる四肢の筋肉運動並に全身運動を要求することが大であるから、立たり据つたり蹲んだり這つたり又は手を延ばして引つぱり、重いものを持ち上げ或は運んだりすることは大なる興味を有つのみならず、健康上にも非常に有益なことである。

一、幼稚園に於ける經驗によると、廣い場所に屋根を造り或は二階建の家を造る樣な長い太い材料を幼兒に與へることが必要である。內觀的にも屋根を造つて遊んだことが非常に愉快であつたことを想起する。此の積木によれば、階段のある家を建てゝ其の內に入り、階段を上ることも出來る、椅子・床・寢臺等を作り其の上に上ることも出來る、橋を造つて渡ることも出來る。是等は幼兒の活潑なる運動を促進する必要なる作業である。

一、此の大仕掛の構造は、小積木の出來ざる社交的共同一致の動作を促進するに必要なるもので、假令ば、一家を造つて "Lady Come to see" game の遊戲に必要なる家具を作ることが出來る。

右一組全重量約八十貫　總數計六百八十個

定價
- 一組（六百八十個）　金壹百三十圓
- 半組（三百四十個）　金六十五圓
- 四半組（百七十個）　金三十三圓

備考＝此の積木は、本邦に於ては岸邊先生とデスリーシ先生が亞米利加から見本を採つて來られたのが始まりで、兩園共目今盛に用ひられて居る。

製造販賣　東京市麴町區三番町　フレーベル館